

静嘉堂文庫竣工 100 年・特別展 画鬼 河鍋暁斎×鬼才 松浦武四郎 「地獄極楽めぐり図」から リアル武四郎涅槃図まで

会 期：2024 年 4 月 13 日（土）～ 6 月 9 日（日）

会 場：静嘉堂@丸の内（東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 1 階）

主 催：静嘉堂文庫美術館（公益財団法人静嘉堂）

開館時間：10:00～17:00 ※土曜日は 18:00、第四水曜日は 20:00 閉館。入館は閉館時間の 30 分前

休 館 日：月曜日、5 月 7 日（火）

※4 月 29 日（月・祝）、5 月 6 日（月・祝）は開館

ホームページ：<https://www.seikado.or.jp/> X (旧 twitter)：@seikadomuseum

Instagram：@seikado_bunko_art_museum

お問合せ：電話 050-5541-8600（ハローダイヤル）

入 館 料：一般 1,500 円 大高生 1,000 円 中学生以下無料

絵師・河鍋暁斎（1831～89）と、探検家で好古家、著述家、北海道の名付け親である松浦武四郎（1818～88）は、幕末から明治期のマルチタレントで、お互いを知る仲でした。画鬼と呼ばれた暁斎は、あらゆるものを描いた生来の絵師で、武四郎から依頼され、その愛玩品図録『撥雲余興』の挿図の一部を担当し、武四郎を釈迦に見立てた「武四郎涅槃図」を描いています。

本展では当館所蔵の暁斎の代表作の一つ「地獄極楽めぐり図」を全場面展示（会期中場面替えあり）ほか、松浦武四郎記念館所蔵の重要文化財「武四郎涅槃図」とそこに描かれた、「大首飾り」（当館所蔵）をはじめとした武四郎愛玩の品々（武四郎記念館所蔵品と当館所蔵品）を初めて同じ空間で展示し、「武四郎涅槃図」を立体的に再現します。あわせて、武四郎の生家に伝来した武四郎蒐集の古物の目録である『蔵品目録』掲載の資料で、近年静嘉堂が所蔵することが再認識された古写経類、天神像など書画類を紹介します。さらに、武四郎の親友・川喜田石水（1822～79/川喜田家第 14 代）と百五銀行頭取などを務めた実業家であり陶芸も能くした川喜田半泥子（1878～1963/川喜田家第 16 代）、三菱第四代社長・静嘉堂初代理事長・岩崎小彌太（1879～1945）との縁を紹介します。幕末明治の多才な二人と、彼らを支えた人々の、古物（文化財）への情熱に思いを馳せる機会となれば幸いです。

（広報用画像 2）

鬼才 武四郎

明治 15～17 年（1882～84）撮影

松浦武四郎記念館蔵

（広報用画像 1）
画鬼 暁斎



3つのみどころ

① 初の試み！これぞリアル武四郎涅槃図！

重要文化財 河鍋暁斎筆「武四郎涅槃図」(松浦武四郎記念館蔵)と、そこに描かれた武四郎愛玩品が、松浦武四郎記念館、静嘉堂の双方から集結！

*イメージ図です



② 暁斎の代表作

「地獄極楽めぐり図」×「武四郎涅槃図」

16 年ぶりの競演!!

* 2008 年京都国立博物館

「絵画の冒険者 暁斎 Kyosai-近代へ架ける橋-」展以来

*「地獄極楽めぐり図」全 40 図を全場面展示！



(上: 広報用画像 4)

(左: 広報用画像 5)

河鍋暁斎

「地獄極楽めぐり図」

明治 2～5 年(1869～72)

静嘉堂蔵



(広報用画像 3)

河鍋暁斎 重要文化財「武四郎涅槃図」

明治 19 年(1886)

松浦武四郎記念館蔵

③ 暁斎×武四郎『撥雲余興』(武四郎自慢の愛玩品図録)制作時からのおつきあい！

Keyword は天神信仰！ 武四郎旧蔵・静嘉堂所蔵の新発見！ 初公開品の数々

松浦家伝来の暁斎筆「野見宿禰(のみのすくね)」絵馬額(野見宿禰は土師巨となり、土師氏の中に菅原姓を名乗るものができたことから、菅原道真は野見宿禰の末裔とする説がある)や、静嘉堂秘蔵の武四郎旧蔵「天神像」の数々を初公開！この天神、あの天神も！



(広報用画像 6)

河鍋暁斎「野見宿禰」
明治17年(1884)
松浦武四郎記念館蔵



(広報用画像 7)

初公開！土佐光重「天満宮神影」
室町時代(14~16世紀)。小野湖山箱書
明治19年(1886) 静嘉堂蔵
松浦家伝来『藏品目録』に掲載！



(広報用画像 8)

**松浦家伝来『藏品目録』
に掲載**

「渡唐天神像」
(伝祥啓筆・万里集九賛)
室町時代 静嘉堂蔵

『撥雲余興』(はつうんよきょう)にみる暁斎挿絵の品はやっぱりユニーク！再現力抜群！



(広報用画像 9)



(広報用画像 10)

(左:画像 9)

「老猿面」年代不詳 静嘉堂蔵

(右:画像 10)

『撥雲余興』より
「古銅老猿仮面」 河鍋暁斎挿絵
明治10年(1877) 静嘉堂蔵
左の賛は富岡鉄斎、箱書を忠実に写す



(広報用画像 11)

「鬼面鈴」
年代不詳 静嘉堂蔵



(広報用画像 13)

『撥雲余興』より「鬼面鈴」 河鍋暁斎挿絵
「城州深草掘出車輪石」 青木正好挿絵
明治15年(1882) 静嘉堂蔵



(広報用画像 12)

「石製装身具」
年代不詳 静嘉堂蔵

報道各位

プレスリリース



(広報用画像 14)

土佐光起「渡唐天神像」

江戸時代(17世紀) 静嘉堂蔵
半泥子が見た「昭和北野大茶湯」出品の小彌太所蔵品実は
松浦家伝来『蔵品目録』に掲載！



(広報用画像 15)

重要文化財「慈覚大師伝」平安時代(12世紀)

静嘉堂蔵 箱書は勝海舟。

松浦家伝来『蔵品目録』に掲載！



(広報用画像 16)

初公開！「涅槃講式」鎌倉～室町時代頃(14～

16世紀) 静嘉堂蔵 箱書は市川万庵

涅槃会の儀式のための仏典

松浦家伝来『蔵品目録』に掲載！



(広報用画像 17)

「大首飾り」

縄文時代～近代 静嘉堂蔵

武四郎の肖像写真や「武四郎涅槃図」で
自慢げに身につけている！

暁斎×武四郎展 人物相関図



川喜田石水
(1822～79)
伊勢の豪商で
あり、蔵書家
で文化人。
川喜田家第14
代当主

幼馴染。共に古銭収集家



画鬼・河鍋暁斎 (1831～89)



鬼才・松浦武四郎
(1818～88)



岩崎彌之助
(1851～1908)
三菱二代社長
静嘉堂の創始者
武四郎旧蔵品を蒐集

二人の交流は、武四郎愛玩品を集めた『撥雲余興(はつうんよきょう)』(当館蔵)の挿絵を、
暁斎らに依頼した、明治年頃に始まる。
住いも近く、共に天神さまを信仰、情に篤い！

明治生命の大株主

川喜田半泥子
(1878～1963)
川喜田家第16代
当主
百五銀行頭取
陶芸家
千歳文庫創設
石水の孫



- ・茶道を久田宗也に師事
- ・小彌太は静嘉堂文庫を拡充
- ・半泥子は千歳文庫を創設



岩崎小彌太
(1879～1945)
三菱四代社長
彌之助の子

【展示構成】

第一章 暁斎と武四郎—『撥雲余興』まで

武四郎が暁斎に初めて挿絵を依頼したのは明治五年『西蝦夷日誌（にしえぞにっし）』だった。暁斎は湯島に、武四郎は馬場先門近くの岩倉邸長屋、明治6年からは神田五軒町と近所に住んでいた。

そのころの暁斎は、国内外の博覧会を舞台に活躍。一方で、濃彩密画の奇想天外な「地獄極楽めぐり図」のように、日本橋の小間物問屋・勝田五兵衛（かつたごへい）の愛娘の追善供養のためにも描いた。暁斎は誰にでも、何でも描くことができた。

武四郎が最も古物蒐集に情熱を注いだのは、六度め、即ち最後の蝦夷地踏査を終えた安政五年（一八五八）以降。明治初年より武四郎は頻繁に古物展覧を行い、図録まで刊行した。渾身の愛蔵品図録『撥雲余興』（明治十年、十五年）でも、暁斎に計12図の挿絵を依頼している。絵心もある武四郎は自身の著作の挿絵を自身で描くこともあったが、原寸、多色刷木版、拓本の利用など再現力を重視した本書では、立体物を再現するにあたり、暁斎らプロの絵師を登用したのだった。

第二章 暁斎と武四郎—天神信仰と祈りの造形

暁斎と武四郎は共に天神（菅原道真）と観音を篤く信仰していた。暁斎は明治十四年頃より天神と観音を描くことを日課とし、近所の湯島天神や浅草観音堂、護国院などに毎月日課図を奉納していた。

武四郎の天神信仰熱は、古物蒐集熱と軌を一にしている。まず明治八年に北野天満宮、翌年、上野東照宮へ大神鏡を奉納、明治十四年より西日本の天神社のうち二十五社を菅公の聖廟二十五霊場と定め、これらを巡拝し、鏡と石碑を奉納している。勿論、併せて宝物の拝観、蒐集もした。

武四郎が菅原道真（天神）をことのほか尊崇したのは、菅公が太宰府に左遷されたことを、自身の境遇、即ち開拓判官を辞し、隠居の身となったことに重ね合わせたためだという。本章では天神信仰を中心に武四郎が集めた祈りの造形をみてゆく。

第三章 暁斎×武四郎＝「武四郎涅槃図」

「武四郎涅槃図」（北海道人樹下午睡図）は、武四郎を釈迦に見立て、周囲には釈迦の弟子や十二支の動物たちの代りに、武四郎の沢山の愛玩品が集まる変わり涅槃図。大胆不敵で好古家（いにしえを好む人）の武四郎と、抜群の画力を誇る暁斎のコンビならではの作だ。暁斎は足かけ6年かけて、武四郎の無謀な注文に付き合いながら、それぞれの古物の特徴に悲しみの表情やしぐさを加え、荘厳な一幅に仕上げている。

描かれた武四郎旧蔵の古物の多くは、好古家仲間の賛辞が墨書された鍵付きの木箱に納められる。勿論、本作にも、完成後に親友・小野湖山や日下部鳴鶴が箱や画中に賛辞を認める。そして奇跡的に、武四郎旧蔵の古物は松浦家と静嘉堂に35点も現存していた。

本章では武四郎が愛玩した古物が、本作と共に時を経て一堂に会する。かつての武四郎邸内のように、文人たちが集い、古を思い、賛辞を示した古物が並んだ、“リアル武四郎涅槃図”をご堪能いただきたい。

第四章 好古趣味の系譜―静嘉堂文庫と千歳文庫

武四郎旧蔵品は明治末頃より岩崎彌之助（1851～1908）の所蔵となり永く静嘉堂文庫で秘蔵されたようだ。古物を通して古人に思いをはせるという姿勢は彌之助の精神と通じるところがあったのだろう。

武四郎は 15 歳頃から古銭を集めていたらしい。古銭収集は、武四郎の幼馴染で伊勢の豪商・川喜田家 14 代当主の川喜田石水（かわきたせきすい）（1822～79）の趣味でもあった。石水はかの地の文化人であり、蔵書家で、郷里を離れて全国を飛び回る武四郎と情報交換しあうなど、生涯懇意だった。この蔵書を受け継ぎ、千歳文庫を創設したのが、陶芸家・川喜田半泥子（かわきたはんでいし）（1878～1963）である。半泥子は川喜田家 16 代当主であり、百五銀行頭取をつとめた実業家でもある。しかも、彌之助の遺志を継ぎ、静嘉堂文庫を拡充した岩崎小彌太（1879～1945）と交流があった。因みに二人とも明治生命の大株主でもある。

本年は静嘉堂文庫竣工 100 年にあたる。ここでは今に続く実業家にして好古の人々、岩崎家、川喜田家の縁をご紹介します。

●関連イベント

① 「鼎談 がいなもん！暁斎と武四郎！」

講師：河治和香（小説家）×山本命（松浦武四郎記念館館長）×安村敏信（当館館長）

日時：4 月 21 日（日）14：00～15：30

会場：明治安田ホール丸の内（明治安田生命ビル低層棟 4F）

定員：120 名（聴講無料・当日の入館券必要） HP 予約サイトよりお申込みください。

② 担当学芸員のスライドトーク

日時：5 月 4 日(土)、5 月 19 日(日)、6 月 1 日(土) いずれも 11：00～、14：00～

会場：明治安田ギャラリー（明治安田生命ビル低層棟 1F）

定員 30 名（聴講無料・当日の入館券必要）

③竣工 100 年記念・静嘉堂文庫（世田谷区岡本）探検！

・非公開の文庫建物内部を学芸員が解説、岩崎家霊廟、庭園もご案内します。

日時：4 月 30 日(火)、5 月 10 日(金) いずれも 10：30～、13：30～、15：30～

集合場所：静嘉堂文庫 噴水前（世田谷区岡本 2-23-1）

定員：各回 20 名 参加費：1500 円 要予約、本展入館券必要

HP 予約サイトよりお申込みください。

*トークフリーデーは 4 月 30 日(火)

展示室内でも自由に語り合いましょう！小さなお子さん、保護者の皆さんもどうぞ。

【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局（共同 PR 内 担当：三井）※メールでいただけると助かります。

E-mail：seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail:press@seikado.or.jp （広報担当：大森）

静嘉堂文庫竣工100年・特別展「画鬼 河鍋曉斎×鬼才 松浦武四郎」 2024年4月13日(土)～6月9日(日)
静嘉堂文庫美術館(静嘉堂@丸の内)
【広報作品画像データ申請書】

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送付が難しい場合、FAXでお申込みください(FAX:0120-653-545)
<画像使用全般に関する注意>

- 展覧会名、会期、会場名などの開催概要のほか、指定表記、作家名、作品名、制作年を必ず掲載してください。所蔵元はまとめて1か所ご記載ください。
- 作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません(画像背景を削除するなどは可能です)。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。
- 概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	作者名・指定表記・作品名/画像資料名	制作年/制作年代	所蔵元/画像提供元
	1	河鍋曉斎(画鬼 曉斎)		
	2	松浦武四郎(鬼才 武四郎)	明治15～17年(1882～84)撮影	松浦武四郎記念館蔵
	3	河鍋曉斎 重要文化財「武四郎涅槃図」	明治19年(1886)	松浦武四郎記念館蔵
	4	河鍋曉斎 「地獄極楽めぐり図」 ※会期中場面替えあり	明治2～5年(1869～72)	静嘉堂蔵
	5	河鍋曉斎 「地獄極楽めぐり図」 ※会期中場面替えあり	明治2～5年(1869～72)	静嘉堂蔵
	6	河鍋曉斎 「野見宿禰」	明治17年(1884)	松浦武四郎記念館蔵
	7	土佐光重 「天満宮神影」 小野湖山箱書	室町時代(14～16世紀)	静嘉堂蔵
	8	「渡唐天神像」(伝祥啓筆・万里集九賛)	室町時代(16世紀)	静嘉堂蔵
	9	「老猿面」	年代不詳	静嘉堂蔵
	10	『撥雲余興』より「古銅老猿仮面」 河鍋曉斎挿絵	明治10年(1877)	静嘉堂蔵
	11	「鬼面鈴」	年代不詳	静嘉堂蔵
	12	「石製装身具」	年代不詳	静嘉堂蔵
	13	『撥雲余興』より「鬼面鈴」 河鍋曉斎挿絵	明治15年(1882)	静嘉堂蔵
	14	土佐光起 「渡唐天神像」	江戸時代(17世紀)	静嘉堂蔵
	15	重要文化財「慈覚大師伝」 勝海舟箱書	平安時代(12世紀)	静嘉堂蔵
	16	「涅槃講式」 市川万庵箱書	鎌倉～室町時代(14～16世紀)	静嘉堂蔵
	17	「大首飾り」	縄文時代～近代	静嘉堂蔵
	18	ポスタービジュアル		

ご住所	〒		
社名/媒体名	社名		媒体名
ご所属/ご担当者名	ご所属		ご担当者名
TEL/FAX	TEL		FAX
E-mail			
掲載号／ 発売予定日	月号(月 日号)／ 月 日発売予定 (発行部数 部) ☐ WEBへの転載あり		
チケット プレゼント	☐ 読者プレゼントを希望する ※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。 応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。		
チケット 送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。		